

| | |
|--------------|---|
| Title | 野生生物保護学会の方向性 : 学会の対象分野の多様化と学会運営の将来 |
| Author(s) | 敷田, 麻実 |
| Citation | 野生生物保護学会第11回大会プログラム・要旨集: 20-20 |
| Issue Date | 2005-11 |
| Type | Presentation |
| Text version | publisher |
| URL | http://hdl.handle.net/10119/16915 |
| Rights | Copyright (C) 2005 「野生生物と社会」学会. 敷田麻実, 野生生物保護学会第11回大会プログラム・要旨集, 2005, p.20. |
| Description | |

野生生物保護学会の方向性：学会の対象分野の多様化と学会運営の将来

責任者：敷田麻実
金沢工業大学

会長就任時に示した学会運営方針では、今後の学会の基本方針として、1. 情報を積極的に公開し会員で共有する、2. 野生生物保護学会のミッションを鮮明にする、3. 会員サービスを明確にする、4. 研究論文投稿など学術的活動の促進、5. 学会の多様化の促進、の5点をあげた。

この方針に従って、運営責任を負う理事会をはじめ執行部は努力するが、会員が直接会の運営やサービスのあり方について議論し、提案する場があれば、より運営は身近になる。さらに、運営を執行部に付託するだけではなく、会員が直接意見を述べるオープンな場があることで参加度も高まると考える。そのため自由集会で「学会の将来」を考える場を提案した。

もちろん、このような場として総会があるとの指摘もあるが、短期的な課題を主に議論する総会とは異なり、中長期的な課題を議論する場として位置づける。今年度の状況にもよるが、可能であれば毎年開催することにした。

この自由集会では、会長や理事から学会の方針と現状、展望を説明した上で、会員フリーディスカッションで、今後の学会運営に関する示唆を得ることを目的とする。また今年度の自由集会で特に議論したいテーマとしては、学会の多様化の促進、これまでの「野生生物＝野生動物」の偏りを是正したい。

このテーマを選定したのは、他の類似学会との差別化のためでもあるが、クマ問題など、人と野生生物の関係が野生生物保護の重要課題となっている社会的背景を意識した。多くの会員の方のオープンな議論を期待したい。